



# 清水けんいち 市政レポート

政策討議資料  
第37号  
2017年4月

## 【ご挨拶】

皆様の、日頃からのご支援ご協力に、心より感謝申し上げます。議員活動を市民皆様に御報告する事で、少しでも開かれた政治にしていきたい。皆様と力を合わせて「住みやすく・暮らしやすく・子育てしやすい街」深谷を実現していきたい！

そうした思いで、「市政レポート」を発行して参ります。

この市政レポートは私の分身です。毎号ファイルに綴って読んでもらっている子は幸せ者で、そのままポイされている子は涙を流しているかもしれません。

皆さんにお願いします。どうぞ、この子を可愛がってあげてください。

## 【議会報告】

深谷市議会 平成29年度 第1回定例会3月議会が終了しました。

### 主な議案

- ・平成29年度 一般会計予算（可決）
- ・平成29年度 国民健康保険特別会計予算（可決）
- ・財産の無償貸し付けの期間変更について（可決）
- ・子ども医療費支給に関する条例の一部を改正する条例（可決）
- ・税条例の一部を改正する条例（可決）

（他、市長提出議案24件・請願1件）

### アウトレットモール誘致の推進状況！

平成30年度のオープンを目指して進められてきた、花園インターチェンジ拠点整備事業（三菱プレミアムアウトレットモール、キューピー（株）の誘致）ですが、この度、市の発表で、今迄の開発手法から「土地区画整理事業」に手法を変えて進められることが決定しました。予定では、平成32年度のオープンということです。尚、秩父鉄道の新駅は、今年度に着手される予定です。

※関越自動車道寄居スマートインターは、平成30年3月開通予定です。

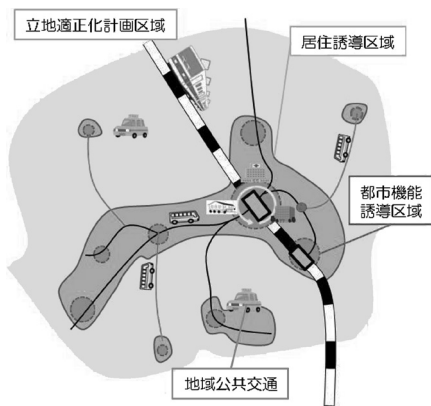
### 立地適正化計画の作成に着手

人口の急激な減少と高齢化を背景として、高齢者や子育て世代にとって、安心できる健康で快適な生活環境を実現すること、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすることが大きな課題です。こうした中、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通により、これらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』の考えで進めていくことが重要です。

このため、都市再生特別措置法が改正され、行政と住民や民間事業者が一体となったコンパクトなまちづくりを促進するため、立地適正化計画制度が創設されました。平成26年12月議会一般質問で、この立地適正化計画を早期に作成すべきと提言させていただいたのですが、昨年度から着手し、いよいよ本格的な取組みが始まります。

### 都市計画と民間施設誘導の融合

民間施設の整備に対する支援や立地を緩やかに誘導する仕組みを用意し、インフラ整備や土地利用規制など従来の制度と立地適正化計画との融合による新しいまちづくりが可能になります。



### 子ども医療費支給が18歳までとなります！

子どもが医療機関にかかる、入院費・通院費の軽減を図るため一部を支給する対象年齢が、15歳から18歳までと拡大されます。※10月1日から実施となります。

### 平成29年度 一般会計予算の概要

一般会計は、459億5,249万円、前年に比べ4.5%の減、歳入は市税182億6,409万円、前年1%の増、地方交付税、67億2,000万円、8.3%の減、以上となっております。

### 平成29年度一般会計歳入予算款別内訳

（単位：千円、%）

款	予算額	構成比	款	予算額	構成比
1 市税	18,264,097	39.7	13 使用料及び手数料	412,144	0.9
2 地方譲与税	608,801	1.3	14 国庫支出金	7,340,612	16.0
3 利子割交付金	13,700	0.0	15 県支出金	3,202,907	7.0
4 配当割交付金	74,200	0.2	16 財産収入	138,078	0.3
5 株式等譲渡所得割交付金	54,200	0.1	17 寄附金	250,054	0.5
6 地方消費税交付金	1,896,000	4.1	18 繰入金	1,137,653	2.5
7 ゴルフ場利用税交付金	39,400	0.1	19 繰越金	800,000	1.7
8 自動車取得税交付金	172,900	0.4	20 諸収入	628,430	1.4
9 地方特例交付金	106,000	0.2	21 市債	2,728,000	5.9
10 地方交付税	6,720,000	14.6	合計	45,952,490	100.0
11 交通安全対策特別交付金	23,025	0.1	自主財源	22,972,745	50.0
12 分担金及び負担金	1,342,289	2.9	依存財源	22,979,745	50.0

### 平成29年度一般会計歳出予算款別内訳

（単位：千円、%）

款	予算額	構成比	款	予算額	構成比
1 議会費	305,047	0.7	8 土木費	6,028,278	13.1
2 総務費	4,556,817	9.9	9 消防費	2,112,705	4.6
3 民生費	21,068,007	45.8	10 教育費	4,564,107	9.9
4 衛生費	3,040,417	6.6	11 公債費	2,817,568	6.1
5 労働費	84,974	0.2	12 予備費	70,000	0.2
6 農林水産業費	825,004	1.8	合計	45,952,490	100.0
7 商工費	479,566	1.0			

歳出は、福祉や生活保護費等の民生費が210億6,800万円と全体の45.8%、道路などの土木費が60億2,802万円が13.1%となっております。



人口減少、少子高齢化が進む中、市税などの歳入が増えていく状況ではありません。そして、福祉にかかるお金は確実に増えていきます。それでは、今、何をなせばよいのか？私は、将来に向けての財源の確保と固定費の削減が急務であると考えます。具体的には、企業誘致（アウトレットを含む）や人材の育成（市職員）、例えば、市では、公共施設にあるエレベーターや自動ドアの点検を外注に依存しておりますが、年間で数百万円も掛かっております。また、様々な計画の作成についても、外注に委託をして数千万円も掛かっております。こうした、委託業務を市職員ができるようになれば、相当な経費の軽減に繋がります。今後も検証を続けて提言して参ります。

### 《知って“得をする”情報》

- ・住宅用省エネ設備設置補助事業  
太陽光発電設備や燃料電池システム、エネファーム、リチウム蓄電池などの設置に対して6万円が補助されます。
- ・住宅耐震化促進事業  
昭和56年以前に建てられた住宅の耐震化工事に最高30万円、解体工事に最高20万円が補助されます。

# 3月10日 清水健一の 一般質問と答弁(要約)



「子曰く、性 あい近し、  
習えば あい遠し」  
(論語)

人は皆、同じような性質を持って生まれてきますが、学習することによって、様々な人格に変化していく。という孔子の教えです。3月は卒業、そして4月は入学式のシーズンですが、孔子の教えを胸に刻んで、出席させていただきます。

議席番号15番・清水健一、発言通告書に基づき質問を行ないます。

## 質問1 “子ども子育てについて”



▲入園率が100%に満たない深谷市立保育園

保育園の入園状況と対応について、伺います。毎年2月になると、何人かの保護者の方から、電話やメールが寄せられます。内容は、「保育園に入れなかった」というもので、「今年は、深谷市は第3子以降の保育料が無料になりましたが、入れなければ、何の意味もないですよ！」という厳しい御意見も頂戴しました。「少子化なのに、保育園に入れない。」こうした状況の背景には、核家族化が進み、昔のように、おじいさんや、おばあさんが「孫」の面倒を見るという環境ではなくなったことや、女性の活躍も、そうですが、安定した生活のために、共働き世帯が増えているなどの社会の変化によるものなど、様々な要因が考えられ、市でも三世同居・近居支援事業等を展開するなどの、政策を打ち出していますが、抜本的な解決には結びついていないのが現状です。4年前、平成25年3月にも「待機児童問題」について質問しましたが、当時も、その後の4年間も、市の発表では、「待機児童はゼロ」、或いは数名というものです。これは、待機児童の定義が曖昧で、全国・各市町で解釈が異なり、例えば、入園申請書に第3希望まで、記入がなかった人で入園できなかった児童は「待機児童」とカウントしないと、第3希望まで入園できなくても、車で約30分以内に通える保育園がある場合はカウントしないとか、となっております。そうした児童は、私的な待機児童というのですが、公的・私的待機児童の現状と、対応について伺います。

**答弁** 平成28年4月時点の公的待機児童は0人で、私的待機児童は73人となっております。

**再質問** 幼稚園と保育園の連携、いわゆる「幼保連携」も、待機児童の解消につながる施策であると考えますが、進捗状況と、将来展望について、お示し下さい。

**再答弁** 本年、4月から認定子ども園が1園、深谷こどもモデル園が1園オープンしますので、それぞれの良い点、或いは改善し

た方がよい点を検証して、より良い深谷の幼児保育事業を築き上げて行きたいと思えます。

**再々質問** 保育士さんの不足が原因で、公立保育園5園は、入園率が平均で85%と非常に低く、私立保育園でも保育士さんの確保に非常に苦労されている状況だが、市主催で「保育士合同就職説明会」を実施する考えはないですか？

**再々答弁** 私立保育園の関係者の皆さんの意見を聞きながら、実施に向けて進めて参ります。

## 【子ども子育てについての質問を終えて】

待機児童問題に関しては、深谷市だけではなく全国的な問題となっておりますが、どこの自治体でも対応が遅く、やれ、厚労省の定義だとか！と言って現実を直視しない傾向がありますが、大きな流れとして“保育園と幼稚園を一つにする”という動きにあります。しかし、その大前提として、子どもの事を最優先に考えた上でなければなりません。子どもたちの未来のため、活躍したいという女性のためにも、より良い仕組み作りが必要です。

今後も全力で取組んで参ります。

## 質問2 “農業観光について”

昨年2月に、政務活動費を使わせていただき視察に行った際に、寄らせて頂いた、長崎県大村市にあります「おおむら夢ファーム・シュシュ」人口9万人の大村市の「山の中腹」にポツンとある施設ですが、年間、約49万人もの来場者が訪れております。2016年3月の従業員数は72名で、その8割を女性が占めております。

事業内容は、農産物直売所、ビニールハウスを利用した農家レストラン、アイス工房や洋菓子工房の他、ピザ作りやスイーツ作りなどの体験教室、イチゴ・梨・ブドウなどの収穫体験施設等、事業の多角化で、オフシーズンの来場者も確保されていて、最近では、地域の農家などと協力して「農泊事業」も始めております。そこで、質問します。深谷市本田地内にあります農林公園では「県民の農林業に対する理解の促進」及び「農林業関係者に対する資質の向上の支援」を図るため、食と農の拠点として、約2億9千万円を計上して、来年度に再整備されますが、市は、どのように連携を図っていくのか、お示し下さい。



▲約2億9千万円を掛けて再整備される農林公園

**答弁** 再整備後に農林公園で実施されます各種事業につきましては、県農林部より、市と連携を図りたいとの意向が示されておりますので、市内農業の発展と地域活性化のため、協議を進めて参りたいと思っております。

## 【農業観光についての質問を終えて】

深谷市に住んでくれるという「定住人口」を増やして行くことは、行政として最大限、努力し続けて行かなければならないことですが、深谷市を訪れてくれるという「交流人口」も、地域経済の活性化のためにも“力”を入れて行かなければなりません。平成32年度には、アウトレットモールがオープンする予定ですが、来場される約650万人の方々をいかにして、市内各地に誘導するか、或いは、買い物をしてもらうかについて、真剣に考え議論していくべきと考えます。今回は、農業を取上げましたが、商業や工業も含めて、これからも調査研究を行い提言して参ります。

# 清水健一連絡先

〒369-1246 深谷市小前田2406-8  
TEL 048-584-0717

FAX 048-584-0396

ホームページ：http://www.shimizu-kenichi.jp (ブログ公開中)

E-mail：info@shimizu-kenichi.jp



## プロフィール

昭和36年1月27日生まれ (56才)

家族構成 妻、長男、長男妻、長女、次女、孫 (7人家族)

- 埼玉県立熊谷工業高校 卒業
- 社団法人深谷青年会議所 第35代理事長
- 深谷市PTA連合会 会長
- 深谷市立花園小学校 PTA会長
- 深谷市立花園中学校 PTA会長
- 埼玉県立深谷高校 PTA会長
- ふかや市商工会 理事
- 深谷市議会 副議長

このレポートは、今、問題になっている「政務活動費」を使わず清水個人の自費で発行しております。